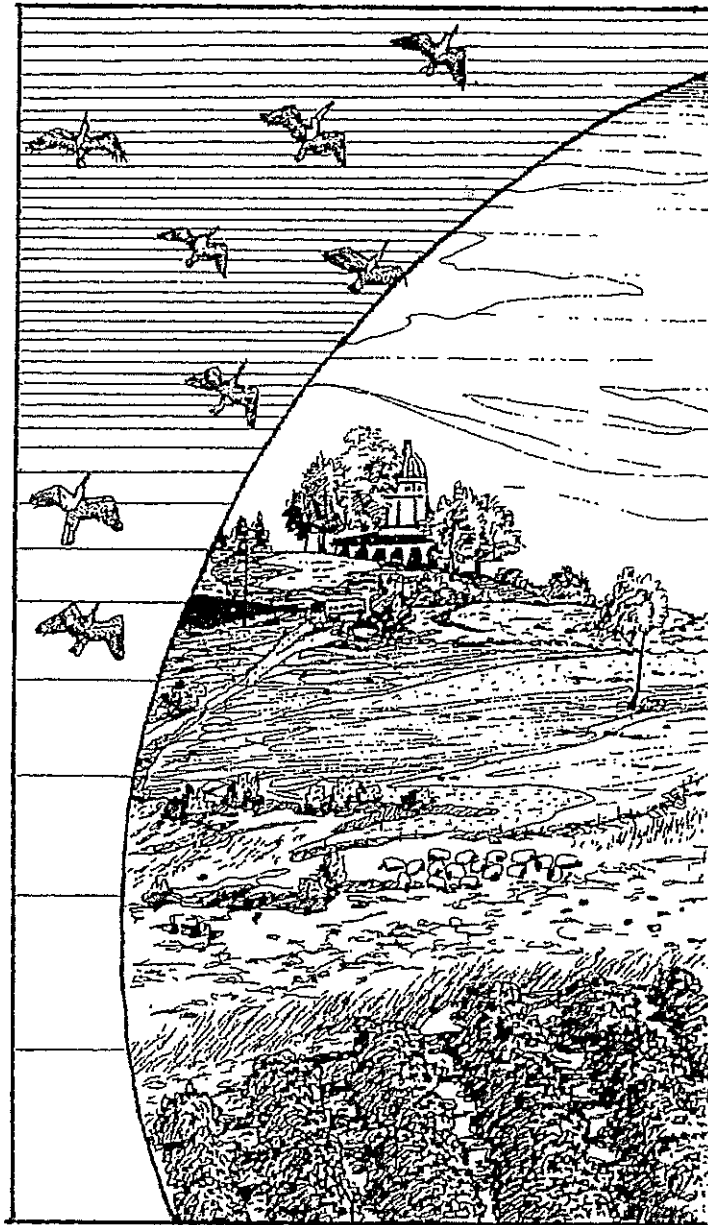


FOR YOUR BIBLE STUDIES



THE WITNESS OF JESUS

CONTENTS

第1部 イエスに対する信仰とは何か

はじめに

第1課 イエスに従ったペテロ
……………4

第2課 イエスの言葉を信頼した百人隊長
……………6

第3課 イエスが認めた信仰
……………8

第4課 心配するのはやめなさい
……………10

第5課 我に立ち返った弟息子
……………12

おわりに

第2部 ほんもののクリスマスを味わう

第1課 マリヤの告白
……………16

第2課 マリヤの賛美と祈り
……………18

第3課 イエスの誕生
……………20

第4課 世界ではじめのクリスマス
……………22

はじめに

グループ聖書研究は、KGK（キリスト者学生会）活動の柱のひとつです。

本書はルカの福音書 1 章 2 節に記されている「目撃者」という語句から、「THE WITNESS OF JESUS」とタイトルをつけました。ルカ自身は、イエス・キリストの直接の目撃者ではありません。しかし彼は目撃者から伝え聞いた事柄を、彼の本業であった医者としての賜物を生かし、綿密に調べて（1 章 3 節）、正確な事実（1 章 4 節）としてまとめました。そしてこの福音書の受取人であるローマの高官テオピロが、キリスト信仰に導かれるように願って書きました。それゆえルカの福音書は、未信者と共に学ぶに大変有益な書です。

四福音書の筆者は他の 3 人がユダヤ人であるのに対し、ルカはアンテオケ出身のシリア人です。彼は異邦人、特にギリシヤ人のためにもイエス・キリストを伝える必要に気づいていました。それゆえ、この福音書は、聖書の世界から見れば異邦人である私たち日本人が、はじめて聖書にふれる場合でも比較的わかりやすい内容が多く含まれています。

この福音書は、女性、子供たち、貧しい人たちに関心が向けられていると言われています。彼らは社会的には弱い立場の人たちです。今日、自分に自信を失い、本当の生き方を求めてさまよっている人が多いと言われていますが、この書を共に学ぶことで、イエス・キリストを通して示された本当の福音にふれ、励ましを受けていくことを期待しています。

本書が、聖書に関心を示し始めた方々に、イエス・キリストへの信仰を求めている方々に、さらにすでにクリスチャンである方々が生き方を確認するために、豊かに用いられることを祈っています。

2002 年 1 月 キリスト者学生会主事会

第1部
イエスに対する
信仰とは何か



第1課

イエスに従ったペテロ

ルカの福音書5章1～11節

権威ある言葉で教え、病をいやしたイエスの評判はますます人々の間で高まり、群衆はそのイエスの言葉を聞きに押し寄せてきました。あるとき、イエスは漁師であったシモンの持ち舟を借りて、その舟から群衆に語り、その後シモンにある命令を与えました。

はじめに…

皆さんは、自分に対し「～をなさい」「あなたは～のようになる」と断言し、方向性を示す人がいたとしたら、その人に対してどんな思いを抱きますか？

- I. 4～7節を見ましょう。夜通し働いたのに、何ひとつ魚が取れなかった状態で、4節のイエスの言葉を聞いたシモンは、どのようなことを考えたと思いますか。

- II. それにも関わらず、シモンはイエスの言葉通りに網をおろしてみました。どうして彼は、そのような行動を取ったのだと思いますか。

Ⅲ. その結果、シモンは大漁という予期しなかった奇跡を経験しました。「私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」(8 節) このときのシモンの態度と言葉に注目しましょう。

- (1) シモンは、自分自身をどのような人間だと認識して、このような言葉を語ったのでしょうか。
- (2) このとき、彼はイエスをどのような方だと思ったのでしょうか。

Ⅳ. そのシモンに対する 10 節のイエスの言葉に注目しましょう。この言葉から、イエスの人柄、特徴についてどのようなことがわかりますか。

Ⅴ. 11 節のシモンの行動に注目してください。8 節においては「離れてください。」と言っていた彼が、どうして従ったのだと思いますか。

● まとめ ●

シモンはイエスの言葉に動かされて、何もかも捨てて従いました。「従う」ということについて考えてみましょう。「従う」とは、どのような態度や行いをさすのだと思いますか。

あなたはどのような人に、「従ってみよう」という気持ちが起こりますか。

「イエスに従った」ということについて、具体的な経験があればお互いに話してみましよう。

第2課

イエスの言葉を信頼した百人隊長

ルカの福音書7章1～10節

イエスは群衆に、「イエスの言葉を聞き、それを行う生活は揺るぎがない」と語られました。その後、カペナウム（慰めの池）という場所へ行き、そこで一人の百人隊長に会いました。彼は自分のしもべがいやされることを願っていました。これから彼の人物像を中心に見ていきましょう。

- I. 百人隊長に送り出されたユダヤ人の長老（町の権威者）たちは、百人隊長のことをどのように見ていましたか。

- II. 6節に注目しましょう。
 - (1) 百人隊長自身は、自分をどのように見ていましたか。「資格」という言葉をカギにして考えてみましょう。

 - (2) 彼は「しもべを助けに来てくださるよう」（3節）イエスにお願いしておきながら、ここではどうして「主よ。わざわざおいでくださいませんように。」と言っているのでしょうか

 - (3) これらのことから、この人がどのような考え方をしている人だとわかりますか。

Ⅲ. 百人隊長は、しもべのいやしに関し、イエスに対して具体的にはどのような期待と信頼を寄せていましたか。

Ⅳ. イエスは、この百人隊長の姿勢を見て、「このようなりっぱな信仰」という賛辞を贈りました。彼はイエスからどうして「りっぱな信仰」と言われたのだと思いますか。イエスに対する信仰とは何か、百人隊長の信仰をモデルとして考えながら、話し合ってみましょう。

● まとめ ●

今日、言葉への信頼感が薄れていると言われていています。あなたは誰かの言葉を信頼した結果、裏切られてしまった経験はあるでしょうか。逆に、誰かの言葉を信頼してよかった経験はありますか。

百人隊長は、イエスの言葉の権威に信頼したことにより素晴らしい結果を見ました(10節)。今日の私たちにとってイエスの言葉(イエスが聖書の中で語っている言葉)は、どのような点で助けになると思いますか。また、この点について、具体的な体験があれば紹介し合いましょう。

第3課

イエスが認めた信仰

ルカの福音書 8章 43節～48節

私たちにとって試練や困難は、できれば避けて通りたいものです。中でも病気は辛い経験です。しかもすぐに直らず、長く続いたとしたら、その苦しみは肉体的にも精神的にもどんなものでしょう。今回の聖書箇所には、12年間もの長い間、女性特有の病気にかかった女の人が登場します。この女の人にイエスがどのように関わられたかを見ていきましょう。

I. この女の方は 12 年間の病気との闘いの中で…

- (1) 自分自身をどのように見ていた、と思いますか。
- (2) 他の人たちに対して、どんな気持ちを持っていたと思いますか。
(参照：マルコの福音書 5 章 26 節)

II. イエスにさわろうとした彼女は、どうして前からでなく、後からイエスに近寄ったのだと思いますか。(44 節)

Ⅲ. イエスは大勢の人がひしめきあっている状況の中で「わたしにさわったのは、だれですか。」と言われました。(45 節) このとき、イエスは、出血が止まった女の人に何を望んでいたと思いますか。

Ⅳ. 47 節の女の人の行動に注目しましょう。

- (1) 女の人の行動の動詞をピックアップしながら、彼女がどのような気持ちで、イエスに向き合っていたかを想像しましょう。
- (2) 「ひれ伏す」という態度から、このとき女の人は、イエスをどのような方だととらえていたのだと思いますか。

Ⅴ. イエスは女の人の信仰を認めています。(48 節)

- (1) この女の人の信仰とは、どのような信仰だったのでしょうか。
- (2) 「安心して行きなさい。」という言葉は、イエスのこの女の人に対する配慮や姿勢をどのように示していますか。
- (3) もし私たちが心に不安や悩みを感じる時、この時の女の人のようにイエスから「安心して行きなさい。」という言葉をかけられたとしたら、どのような気持ちになるでしょう。

● まとめ ●

「信仰」という場合、一般には信仰する人自身の心に焦点があてられたり、信仰する気持ちが問われます。今日の箇所から、聖書でいう信仰の特徴とは、どのようなものであることがわかりましたか。

第4課

心配するのはやめなさい

ルカの福音書 12 章 22~34 節

ここまで3回にわたって、イエスに対して信仰を持って接した人たちの姿を見てきました。この課では、そのイエスが直接弟子たちに語られた言葉から、イエス（神）に対する「信仰」とは何かを共に考えてみましょう。

はじめに…

私たちは日常生活でどのようなことを心配していますか。最近経験した事柄を出し合ってみましょう。

I. 22 節に注目しましょう。

- (1) ここでイエスは、どのような点で心配するのをやめるようにと弟子たちに語っていますか。
- (2) 私たちも 22 節で言われていることを、時に心配してしまうものです。どうして、これらのことを心配してしまうのでしょうか。
- (3) イエスが 22 節のことに関して「心配したりするのはやめなさい。」と言われた理由は何だと思えますか。

II. 28 節を見て下さい。この言葉は、野の草との比較で、神が人間に素晴らしい備えを与えてくださることを示しています。

- (1) 「信仰の薄い人たち。」とのイエスの言葉から、弟子たちのイエスへの信仰とは、どのような信仰であったことが推測できますか。
- (2) 「ましてあなたがたには、どんなによくしてくださることでしょう。」の言葉を、皆さんはどの程度、実際の生活の中で受け止めていますか。自由に話し合ってみましょう。

III. 30 節 32 節を見ると、「父」（なる神）の特徴としてどのようなことがわかりますか。これらの事柄に関し、実生活で何らかの経験をしたことのある人は、話してみてください。

IV. 「何はともあれ、あなたがたは、神の国を求めなさい」（31 節）と、イエスはどのようにしてここで弟子たちにすすめているのでしょうか。ここまでのイエスの弟子たちへの話の内容（22～30 節）を参考にして考えてみてください。

V. 必要なものを与えて下さる父への信仰の態度として、弟子たちはこの箇所から、どのようなことを学んだと思いますか。（32～34 節）

● まとめ ●

今日の聖書箇所から、私たちが「心配」しているとき、神が私たちに与えて下さっている解決の道はどのようなものだとわかるでしょうか。

そのような神に対する信仰を持つ上で、私たちは今、どのような障害を感じていますか。あるいは、どのような不安を感じていますか

第5課

我に立ち返った弟息子

ルカの福音書 15章 11～24節

イエスは、当時のユダヤの社会の中で嫌われていた取税人や罪人たちを受け入れ、一緒に食事をしたりしていました。その様子を見たパリサイ人、律法学者たちはイエスを批判しましたが（15章 2節）、そのような人たちにイエスは3つのたとえ話をして、なぜイエスが取税人たちと積極的にかかわるのかを説明しました。これから見るたとえ話は、「放蕩息子」と呼ばれる、聖書の中でも大変良く知られた箇所です。

父のもとを離れた弟息子

- I. どうして弟息子は、財産の分け前をもらった後、すぐに父の家を離れたのだと思いますか。

- II. 14～16節を見て下さい。
 - (1) ここに書かれている事柄を経験した弟は、どのような気持ちになり、人生についてどのような訓練を得たのだと思いますか。

 - (2) もし彼と似たような気持ちになっている人、またかつてそのような気持ちになった人がいれば、自由に話し合ってください。

- Ⅲ. 「我に返った」(17 節)とありますが、これはどういう意味だと思えますか。その結果、弟はどのようなことを思いつきましたか。
- Ⅳ. 弟が「あなたの前に罪を犯しました」(18 節)と言った罪とは、どのような性質のものだと思えますか。
- Ⅴ. 弟は父のもとに戻った時、「資格はありません」(21 節)と父に告白しました。彼は、父の子供である資格とはいったい何であると考えていたのでしょうか。

弟息子を迎えた父

- Ⅵ. 父親の弟息子の迎え方(20 節)を見ると、この人はどのような父親であったことがわかりますか。
- Ⅶ. またこの父親は、どのようなことを祝い、喜ぶ父親であることがわかりますか。

● まとめ ●

この父親の姿は、聖書が示す神のことをあらわしています。この課から、私たちが「父への信仰」を持つためには、自分自身のどのような点に気付くことが大切だとわかるでしょうか。

この父の前に、どういう態度をとることが、最も望ましいのでしょうか。弟息子のとった行為から考えてみましょう。

弟息子のような経験をした人がいれば、それを話してみてください。

おわりに

天の父は、どんなに汚れてみじめな者でも、
父のもとに立ち返ってくる者を
喜んで受け入れて下さると、
イエスは律法学者に伝えました。

さて5回にわたって
イエス・キリスト（神）に対する
信仰について学んできました。

信仰とは、
自分の信仰心の強弱に頼るのではなく、
むしろ信仰の対象となるお方自身を
信頼することであると学びました。

イエスへの信仰を持つためには、
自分自身の無力さ、
限界を良く知って、自分を造り、
養って下さっている方に
目を向け、従っていくことが大切です。

今、あなたはイエス・キリストを信仰の対象として、
明確にとらえることができるでしょうか。
祈りのうちにこの方を、
自分の救い主、
自分の人生の主人として、
信じる告白をしませんか。

第2部
ほんものの
クリスマスを
味わう

○○○○○○○○○○○○○○○○

第1課

マリヤの告白

ルカの福音書 1章 26～38節

今年もクリスマスの時期がやってきました。クリスマスの意味は、「キリストの祭り」です。キリスト降誕後 2000 年たった今でも、彼の誕生は全世界で記念され、祝われています。第1課では、イエス・キリストを実際に出産したマリヤに注目します。マリヤはカトリック教会では「聖母マリヤ」と慕われ、現在でも信仰の対象になっています。ルカの福音書では、このマリヤはどのような女性として描かれているのでしょうか。

- I. 自分のもとに現われた御使いガブリエルへのマリヤの反応から、彼女はどのような性格の女性であったことがわかりますか。(29節)

- II. 御使いガブリエルが預言したイエスについて、以下の 32 節の言葉からどのような方であることがわかりますか。
 - (1) 「いと高き方の子」
 - (2) 「父ダビデの王位をお与えになります。」
 - (3) 「ヤコブ（イスラエル）の家を治め、その国は終わることがありません。」

Ⅲ. マリヤは処女なのに「男の子を産みます」(31 節)と預言され、ひどく戸惑いました。そのマリヤに対し、

- (1) ガブリエルは、彼女に直接どのような言葉をかけましたか。「あなた」という言葉をキーワードに考えてみましょう。
- (2) それは、戸惑うマリヤにとって、どのような励ましになったと思いますか。
- (3) 御使いとは、「神の使者」という意味ですが、35～37 節において神の使者はマリヤに、神のどのような特徴について紹介していますか。

Ⅳ. 38 節の言葉に注目しましょう。

- (1) この言葉から彼女は御使いの言葉をどのように受け取ったことがわかりますか。
- (2) 彼女は神の言葉と自分の生活（自分の身に起こること）をどのように関連づけたと思いますか。

● まとめ ●

私たちにとって不可能に思えたことが、神の力によって可能となったことはありますか。個人、教会、家族の経験など、自由に分かち合いましょう。

38 節のマリヤの告白はたいへん勇気ある告白です。私たちが聖書の言葉と実生活を一貫させたものとしていくために、現在自分にはどのような課題があると思いますか。

第2課

マリヤの賛美と祈り

ルカの福音書 1章 39～56 節

第1課では、御使いから預言を受けたマリヤの様子を見ました。特に38節から、マリヤが御使いの言葉を神からの言葉として受けとめ、信頼の告白をした場面に注目しました。

第2課では、マリヤが親類エリサベツから祝福を受け、その後で彼女が献げた賛美と祈りの内容を見ていきましょう。

- I. マリヤが彼女の親類にあたるエリサベツが住んでいた町に急いで挨拶に出かけた理由は何であったと思いますか。

- II. エリサベツは、マリヤの挨拶をどのように受けとめましたか。

- III. エリサベツのマリヤに対する祝福（42～45節）は、マリヤにとってどのような意味があったでしょうか。

- IV. 46～55節のマリヤの言葉（「マリヤの賛歌」と呼ばれています）を見ていきましょう。
 - (1) マリヤは自分自身についてどのようなことを知っていましたか。

- (2) 神に対するマリヤの姿勢についてどのようなことが分かりますか。
- (3) マリヤは、神についてどのようなことを知っていましたか。
- (4) 彼女にとって「幸せ」とは、どのようなものであったでしょうか。

V. 50~53 節を見ると、どのような対比が語られていますか。

このことから、私たちは何を大切に生きていくべきなのか、何かヒントを得られますか。

● まとめ ●

「マリヤの賛歌」から、私たちの賛美、祈りはどのような思いで献げるときに、幸せが与えられることを教えられますか。

第3課

イエスの誕生

ルカの福音書 2章 1～7節

マリヤに語られたイエスの誕生の預言がついに実現するときが来ました。イエスがどのような場所で生まれたか、そのことが何を物語っているのかに注目しながら、この箇所を学びましょう。

- I. イエス・キリストが生まれた場所の当時の状況についてどのようなことがわかりますか。(1～2節)

- II. 人々の移動を見て、皇帝アウグストの権力についてどのようなことがわかりますか。(3節)

- III. ナザレからベツレヘムへの距離は100km以上です。身重の女性を連れてこの距離を歩くことは、この夫妻にとってどのような困難があったことが予想できますか。(4～6節)

- IV. 7節に「宿屋には彼らのいる場所がなかった」と記されています。
 - (1) 自分の居場所がない、というときに、私たちはどのような気持ちになりますか。

- (2) この男子の初子^{ういご}の誕生の様子は、あなたの目には、人生のスタートとしてどのように映りますか。
- (3) 聖書は、イエスは神が人として生まれた方だと言っています。そのイエスが成人としてではなく、赤ちゃんとしてこの地上の歩みを始めたことには、どのような意味があると思いますか

● まとめ ●

クリスマスとは、イエス・キリストの誕生を祝うときです。この課では、イエス・キリストの誕生そのものを見ました。その状況は、

- ・ 国はローマの支配化にあった。
- ・ 両親も旅の疲れがあり、余裕がなかった。
- ・ 親子のゆっくりする場所がなかった。
- ・ 飼葉おけに寝かされて、華やかな場所ではなかった。
- ・ 無防備な赤ちゃんとして生まれた。

これらは、世の中の一般の人が抱いているクリスマスのイメージと、どのように違うでしょうか。

第4課

世界ではじめのクリスマス

ルカの福音書2章8~20節

今回はイエスの誕生そのものを見ました。この課ではこのイエスの誕生を世界で最初にお祝いした羊飼いの様子を追っていきます。当時の羊飼いは、社会的には底辺にある存在で、この世においてあまり希望の持てない生活をしていました。

- I. 10節の御使いの言葉をみてください。御使いは、羊飼いたちに「喜びを知らせに来た」と言っています。この喜びの知らせ（イエスの誕生）は、誰に対する知らせなのか。そこから、どのようなことを感じますか。
- II. 11節に注目しましょう。「あなたがたのために」とあります。
- (1) イエスの誕生は羊飼いたちに、どのような関係があることがわかりますか。
 - (2) ここでイエス・キリスト（メシヤ）は、どのような方として紹介されていますか。ここから、キリスト誕生の目的（クリスマスの意味）についてどのようなことがわかりますか。

- Ⅲ. 「地に平和」ということは、人類の願うところですが、過去の歴史では平和の時代はわずかです。地に平和があるために大切なのはどのようなことか、この箇所から考えましょう。(14 節)
- Ⅳ. 飼葉おけに寝ている赤ちゃんを探し当て、周囲の人に御使いが語ったことを伝えたとき、羊飼いたちはどのような気持ちだったのでしょうか。(16~20 節)
- Ⅴ. 世界で最初のクリスマスを味わった羊飼いたちは、神をあがめ、賛美(20 節)しました。これは、彼らにとってどのような気持ちの表現だったのでしょうか。

● まとめ ●

クリスマスを世界で最初に祝った羊飼いたちの姿から、どのような過ごし方がクリスマスに最もふさわしいのは、どのような過ごし方だと思いますか。

THE WITNESS OF JESUS

1993年11月8日 発行

2002年1月15日 3刷

発行 キリスト者学生会・主事会

〒101-0062

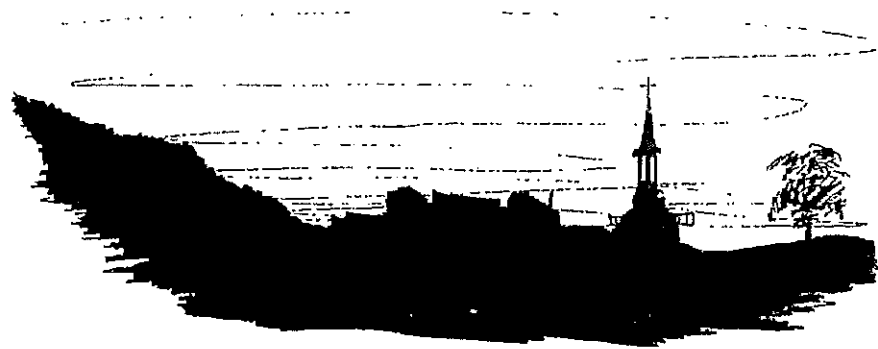
東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル内

Tel 03-3294-6916 Fax 03-3294-6050

<http://www.kgkjapan.net/>

定価 100円





KGK

■ このテキストの使い方

- このテキストは、未信者の友人と一緒に聖書を読みながら、イエス・キリストを紹介するために作成しました。未信者の友人と1対1で行うことも可能ですが、その場合は一緒に学ぶというより、教える形になりやすいので、3～4人の小グループで行うことをお勧めします。
- 1回の時間は1時間以内にとどめて下さい。出来る限り継続的に一定期間に学びを終えられるようにするとよいでしょう。
- 司会者は、準備段階でテキストの質問に自分ならどう答えるか考えておく和良好的でしょう。その場合、答える上で質問が不明瞭だと思ったなら、自分たちがわかりやすいと思う言葉に置き換えて下さい。それぞれの課に司会者の手引きがあります。質問の内容に関すること、聖研のリードに関することが主な内容となっています。
- 聖書研究をしている間に、未信者の友人が福音に対して心を開き始めたと感じたなら、終わった後に時間をとって個人的に信仰について話すときを持ちましょう。
- テキストをひととおりで終えたら、未信者の友人に今後も続けて聖書を読む気持ちがあるか聞いてみて下さい。もし好意的な反応が得られたなら、是非続けて別のテキストで聖書研究を行いましょう。あるいは、他の聖書研究を行っているグループを紹介し、続けて聖書を読む場に参加するように励まして下さい。

■ 司会者の手引き・設問の意図

第1課 イエスに従ったペテロ

Ⅲ. (2)

イエスに対するシモンの呼び方が変化したことに注目すると良いでしょう。

Ⅳ.

10節の言葉「人間をとる」とは、神を信じて生きるように導いてあげること、というような意味です。ここでイエスはシモンに命令しているのではありません。「人間をとるようになる」と未来形で示しています。

まとめ (3)

クリスチャンが証しをする機会として用いて下さい。

第2課 イエスの言葉を信頼した百人隊長

百人隊長とは、古代ローマの軍隊の百人編成の部隊の隊長のこと。当時、聖書の舞台であるユダヤ地方は、ローマ帝国の属国になっていたため、このような役職の人が聖書に登場するのです。

III.

「権威と権力」の違いについて考えるのもおもしろいでしょう。たとえば、なだいなだ氏は、彼の著書「権威と権力」(岩波新書)において、権力とは「言うことを聞かせる論理」であり、権威とは「言うことを聞く論理」と定義しています。

IV.

百人隊長の信仰が、単なる心のやすらぎを求めるものではなく、生活に根ざしていたこと、そしてこのような信仰がキリスト信仰の特徴であることを強調できると良いでしょう。

まとめ (2)

イエスの言葉を実際生活で信頼するには、どのような祝福と葛藤があるかを、クリスチャンが証しする機会として用いてください。

第3課 イエスが認めた信仰

「長血」とは、長期間出血が続く女性の病気。長期間の出血は、命そのものをむしばみました。また当時、血を漏出する者は「穢れた者」であると考えられ、周囲の人からも敬遠される辛い病気でした。

III.

イエスのことばをそばにいた女の人は聞いていたはずですが、イエスは、人が自発的に自分の前に出てくることを願っておられる、と理解してもらえると良いでしょう。

IV. (2)

イエスを個人的に神と認め、礼拝することが大切であることを知ってもらうために、この質問を設けました。

V. (3)

不安の多い今日、「安心を得る」ということはとても大きな喜びです。クリスチャンの中で、みことばから安心を与えられた経験のある人は、この場で証ししましょう。

まとめ

「あなたの信仰」という言葉は、「あなたの私(イエス)に対する信仰」というように考えることがヒントになります。つまり信仰をしている女の人自身ではなく、信仰の対象であるお方、イエス・キリストに目を向けて生きることが、キリスト教信仰の特徴であることに気付いてもらうと良いでしょう。

第4課 心配するのはやめなさい

I (2)

若者はファッションや、スタイルの流行に敏感に反応し、メディア業界に踊らされています。こういう波に多くの人が流されて、必要以上の心配をしていることに気付いて欲しいと思い、この設問を設けました。

II. (1)

「信仰がない」のではなく、「信仰の薄い」と言っていることに注目して下さい。クリスチャンは自分の神様への信仰の薄さを、おくせず素直に分かち合うと共に、それでも信仰が与えられている幸いを証しできると良いと思います。

II. (2)

「良くして下さる」の解釈では、自分の思い通りになる、ということではなく、本当の意味で自分に必要なものが与えられ、養われるということを確認するとよいでしょう。

IV.

「神の国」(31節)、「御国」(32節)とは、神の支配が私たちの世界と生活と心に及んだ状態と言うことができます。つまり、神の国を求めることは、神への信仰を持ち、神に従うことだと確認できると良いでしょう。

まとめ (2)

神に対する信仰を持つことについて、特に障害は感じなくても、なんとなく漠然としていてわからない、という人もいるでしょう。この場合、信仰とははっきりとした礼拝対象、すなわちイエス・キリストを信じることであることを説明して下さい。

「平安」についての分かち合いは、クリスチャンの証しの機会として用いて下さい。

第5課 我に立ち返った弟息子

III.

「我に返った」という言葉を他の言葉に置き換えるとしたら、どうなるかを考えると良いでしょう。

VI.

「資格はありません」(19、21節)という言葉は、第2課で学んだ百人隊長の言葉と同じである(ルカ7章6節)ことに注目するとおもしろいでしょう。

VII.

「かわいそうに」(20節)という言葉は、「内臓がえぐられるような深い憐れみを持つ」ということです。同じ言葉がサマリア人のたとえ(ルカ10章33節)、群衆を羊飼いのいない羊と見たイエスの言葉(マタイ9章36節)で使われています。

VIII.

指輪をはめさせることは、当時貴族の習慣であって、父親がいかに戻ってきた息子の存在を喜び、家族として大切に扱ったかがわかります。

まとめ (3)

クリスチャンは脚色することなく、ありのままの経験や気持ちを率直に語るように心がけてください。

■ 信じる決心をしたい、という人へのフォローアップ

- ・ テキストと一緒に学ぶ中で、もし「イエス・キリストを信じてみたい」という人がいたら、私たちはその人をどのように導くことが出来るでしょうか。「信じたい」という思いを持つのは、その人の努力や、その人と関わる私たちの人徳や熱心な誘いによるものではなく、その人に聖霊が働いておられるからです。それゆえ、接する私たちも聖霊により頼みつつ、厳粛な思いで関わりたいものです。特に、その場合、以下の3つのことを心がけましょう。

(1) どうして信じたいと思ったのかを聞く

「聞く」ことは、相手の考え、思いを整理してあげる良い助けとなります。信じる決心はその人の人生にとっての一大転換です。ある人はそれまでの自分の歩みについて長々と話し出すかも知れません。その場合は時間がかかりますが、相手が心を開き大切なことを話しているのです。じっくりと聞きましょう。

(2) 何を信じるのかを伝える

信じたいと思う人の中で、感情的に高ぶって、その勢いで信じたいと思う人、また藁にもすがる思いで、とにかく信じたいという人もいるでしょう。その時は、相手の気持ちを大切にしつつ（決して否定しないで）、信じるべき内容（神が天地万物を創造されたこと、人間の罪の問題、その罪の解決としてのイエスの十字架と復活）を明確に示してあげてください。

(3) 御言葉によって説明し、祈りにつなげる

信じる決心が人間からの思いによるのではなく、神からの招きに対する応答であることを確信してもらうために、御言葉を示すことが大切です。紹介する御言葉は、自分自身が確信を持って説明できる御言葉がよいでしょう。また、もし相手に何か心に残る御言葉があるようなら、その御言葉を一緒に読み、その後イエス・キリストに対する信仰の決心にふさわしい御言葉を、必要に応じて示すと良いでしょう。（参照「ピリポは口を開き、この聖句から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた」使徒の働き 8:35）私たちは、いつもの確かな御言葉を紹介できるよう、祈り備えておきたいものです。